

20大安衛委-4
2020年6月23日

統括安全衛生責任者
元方安全衛生管理者
安全責任者 殿
衛生責任者

大阪本店安全衛生管理委員会

7・8月度「機械・電気災害防止対策強化月間」について

6月22日現在の安全成績は災害総件数37件と、6月末管理値の29件を上回っており、年初からの頻発傾向に歯止めがかかっておりません。中でも移動中の災害が半数近くを占めており、今後コロナ対応等新たな業務で逼迫する中ではありますが、落ち着いて行動することが求められます。一方で、6月は当社のカウントにはならなかったものの、電気事故に伴う休業災害が発生しました。電気事故・感電による災害は重大災害に直結しますので、最優先で防止に努めなくてはなりません。感電災害を防止するためには、リスクアセスメントに基づく作業手順を作業員全員が理解し、「絶対にやらなくてはならないこと」と「絶対にやってはならないこと」を明確にして遵守する必要があります。

については、7・8月を「機械・電気災害防止対策強化月間」とし、下記のリスクアセスメントを取り入れた重点実施事項を確実に実施することにより、災害防止に努めてください。

記

1. 実施期間

7月1日～8月31日

2. 月間目標

「機械・電気災害防止対策強化月間」
(全国安全週間 7月1日～7月7日)

3. スローガン

「正しい操作と保護具の装着 事前点検 確実に」

4. 重点実施事項

(1) 共通実施事項

- ① リスクアセスメントを取り入れた危険作業事前打合せ会を実施する。
 - イ. コンクリート工作物解体、山止め、杭、掘削、鉄骨建方、立駐、ゴンドラ使用の工事等、重機械を使用する工事や受変電設備の改造・改修、幹線の入線(電気取扱責任者を選任)工事等の危険作業事前打合せでは、手順毎の安全作業の確認をし、指摘事項があれば是正内容の確認後に工事に着手することを徹底する。
 - ロ. リスクアセスメントを取り入れた施工計画を立案する。
 - ハ. OH SMS作業手順書による作業リスク抽出の確認をする。
- 二. 設備部、安全環境部による、打合せ時の指摘事項、未決事項の確認とフォロー巡回を徹底する。
- ホ. 形式的な打合せにならないよう、計画を入念に立案し、作業所長の確認を受けて打合せへ参画する。
- ヘ. 危険作業事前打合せでは、作業所長(やむを得ず参加不可能な場合のみ統括安全衛生責任者とする)及び工事担当者は必ず参画する。[\(2020年1月31日付西日本安全課
20-1「2020年度危険作業事前打合せの取組について」\)](#)

- ② 機械責任者・電気保安責任者は具体的な役割について再確認し関連災害防止に努める。

(2009年12月9日付通牒(西機牒09-3)「機械責任者・電気保安責任者の具体的な役割について」参照)

- ③ 有資格者一覧の表示と有資格者による操作及び作業を厳守する。
- ④ 西日本機材センターHPに掲載している「各種点検表」による点検・整備を徹底する。
- ⑤ 予定外作業発生時は一旦作業を中断する。その後作業手順を改めて確認し、作業の責任者及び役割を明確にし、決めた手順を工事担当者を含めた関係作業員全員に周知させた上で作業を開始する。
- ⑥ 関連ポスター類を朝礼場、休憩所等協力会社、作業員の見やすい場所に掲示し「見える化」を図り注意喚起する。

(2) 電気災害の防止

- ① 作業手順を確認し、電気機械器具類を正しく使用する。
 - イ. 電気機械、電動工具は持込時使用前点検を徹底し必ずアースを接続するか、二重絶縁のものを使用する。
 - ロ. 移動用発電機の接地工事は、本体接地と機能接地（漏電リレーを確実に動作させるための接地）を確実に実施する。
 - ハ. 丸のこは特別教育を修了した有資格者が使用する。
 - ニ. 電工ドラム、延長コードは3芯キャブタイヤケーブルを使用する。
 - ホ. 「電気溶接機自主点検表」の活用と溶接箇所の近傍にアースを接続する。
 - ヘ. 送配電線近接作業時では絶縁防護が必要となるため、技術部、西日本機材センター計画グループに確認し、安全作業を徹底する。
 - ト. 高圧送電線近傍でのクレーン作業に注意する。（2014年9月9日付通牒(西日本技牒14-8)「高圧送電線近傍でのクレーン作業においての注意事項について」参照）
 - チ. 「移動用電気工作物に関する保安規定」を参照する。
- ② 解体工事では既存の受電設備を使用しない。
- ③ 建物解体工事中の活線切断による停電の防止。（2006年9月27日付通牒(大統牒06-23)「建物解体工事中の活線切断による停電の防止について」参照）
- ④ 活線作業、活線近接作業を原則禁止する。（昭和62年10月19日付総技牒62-22「活線作業及び活線近接作業の禁止について」参照）
- ⑤ 西日本機材センターHPに掲載している「目で見る安全点検ポイント」（電気溶接機、電気工具編）を用いて「電気災害防止に係るワンポイントレッスン」を実施する。
- ⑥ 感電・停電事故対策を強化する。
 - イ. 2014年4月3日付通帳(西日本備牒14-1)「受変電改修工事における停電事故防止対策の再徹底について」
 - ロ. 2015年6月2日付通牒(西日本備牒15-1)「電気室内での感電・停電事故防止策の徹底について」
 - ハ. 2017年2月1日付通牒(生本牒17-10)「工事用電気における感電災害防止の徹底について」
 - ニ. 2018年5月14日付通牒(西日本備牒18-1)「電気室内での感電・停電事故対策の強化及び対象工事の拡大について」
 - ホ. 2018年5月31日付連絡文書(18西日本備10)「屋外設置のキューピクル式受変電設備の感電・停電事故防止策について」

以上

西日本品牒20-4
2020年6月12日

支店長殿
部門長

品質部
品質管理委員会

7月、8月度「品質ヒューマンエラー撲滅月間」について

2019年12月17日付通牒（西日本品牒19-7）『2020年度「品質管理月間目標」及び「スローガン」の設定について』に基づき、下記のとおり「品質管理月間目標」「スローガン」及び「重点実施事項」を設定し、品質管理の徹底を図ります。

7月、8月は「品質ヒューマンエラー撲滅月間」としますので、下記事項を確実に実施し、品質の確保に努めてください。

記

1. 「品質管理月間目標」及び「スローガン」

月	月間目標	スローガン
7・8	品質ヒューマンエラー撲滅月間	全員の目で見てなくそうヒューマンエラー！

2. 重点実施事項

作業所及び内勤各部門は、次の（1）～（6）を参考に、今まで実施してきた品質ヒューマンエラーをなくす手法を改めて振り返り、メンバー全員が認識し、実行する。

- (1) 「事前に計画し、計画どおりに実施する」という基本に忠実な施工管理を確実に実施する。
- (2) 日々の作業前確認時に仕事の内容を具体的にイメージし、予想されるリスクを漏れなく抽出し、その対策を立案、実施する。
- (3) 計画と異なる非定常作業が発生する場合は、一旦作業を中断し、関係者で改めてリスクアセスメントを行い、手順を再確認してから再開する。
- (4) 思い込み、勘違いによる品質ヒューマンエラーを防ぐため、常に繰り返し確認する習慣を身につける。また、必要に応じて指差呼称等の活動を取り入れて間違いの防止を図る。
- (5) 間違いが生じても後工程まで流出しないような「馬鹿よけ」(fail-safe, fool-proof) の仕組みを取り入れる。
- (6) 作業前、作業終了時には4S（整理・整頓・清掃・清潔）を徹底する。

3. 5、6月月間目標のフォローと継続について

5、6月月間目標「漏水問題撲滅月間」において取り組んだ活動状況のフォローを行うとともに、今後も作業所、協力会社及び内勤関連部門が一体となり、基本に戻って品質を確実に確保するよう活動を継続する。

4. 問合せ先

品質部 河野（内線 891-42217）
技術部 青木（内線 891-42577）

以上

2020

7,8月 品質ヒューマンエラー撲滅月間

全員の目で視(み)てなくそ ヒューマンエラー!



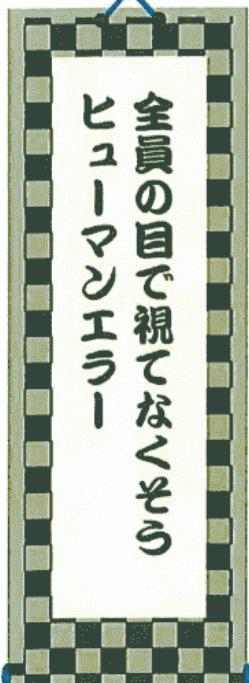
田ノ浦ビーチ (© 大分市クリエイターズコンソーシアム) 画像使用許可: https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/

大分県

2020

7月 8月

スローガン



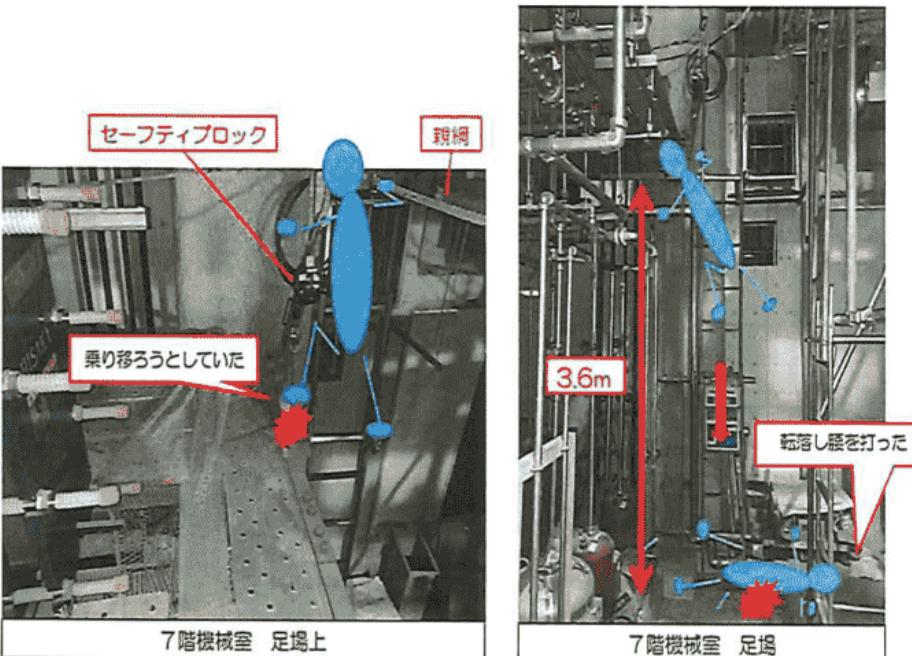
品質ヒューマンエラー撲滅月間

マンガ【明日の用意だけじゃなく】の巻

作: 都あきこ



タイトル	タラップから足場へ移る際、バランスをくずし墜落			大阪 地区
災害発生日時	2020年6月27日(土)16時40分頃[晴]			
職種	空気調和職種	年齢	30歳	
経験年数	3年0ヶ月	就労日数	21日	
負傷部位	腰部	起因物	はしご等	
型別	墜落、転落	負傷程度	頭部外傷、逆行性健忘、第1、2、3、4腰椎左横突起骨折	
属性	労働者	起因工事	設備工事	
所属会社	一			
工事概要	工事種別	新築	施工区分	単独
	建物種別	ホテル	工期	18/10/1-20/10/30
	階数	B1 F31 P0	構造	S/SRC
発生状況	<p>被災者は、設備機器のステージ足場に忘れていた道具を取りに行くため、安全ブロックを安全帯のフックに掛け、昇降タラップを上った。昇降タラップを上りきったところで足場上に乗り移ろうとしたとき、近くにあった親綱に安全帯のダブルフックの一方を掛ける前に、安全ブロックに掛けた安全帯フックを外した際、バランスを崩し墜落した。</p> <p>(※詳細な原因については、本人と面談できておらず確認できていない)</p>			
災害形成要因(問題点)			再発防止対策	
1	タラップを上る際には安全ブロックを使用していたが、上部ステージ足場に乗り移る際に安全帯のフックを親綱に掛ける前に安全ブロックを外しバランスをくずして墜落した。			二丁掛け安全帯の掛替えを適正に行う。また指導教育と実施を徹底する。
2	上部ステージへの昇降時に危険に対する意識が不足していた。			日々のRAKYにて、作業内容、行動を把握してより具体的に安全指示を行う。
3	タラップ昇降時の二丁掛け安全帯と安全ブロックを正しく使用することが行われず、指導教育が不足していた。			タラップ昇降時の安全帯と安全ブロックの適正な使用の指導教育を行い、掛替えが必要な場所に『安全帯掛け替え必要』の表示を行う。また、安全ブロックは腰ベルトのD環にフックを掛ける基本と掛け替え手順を徹底させる。
4				

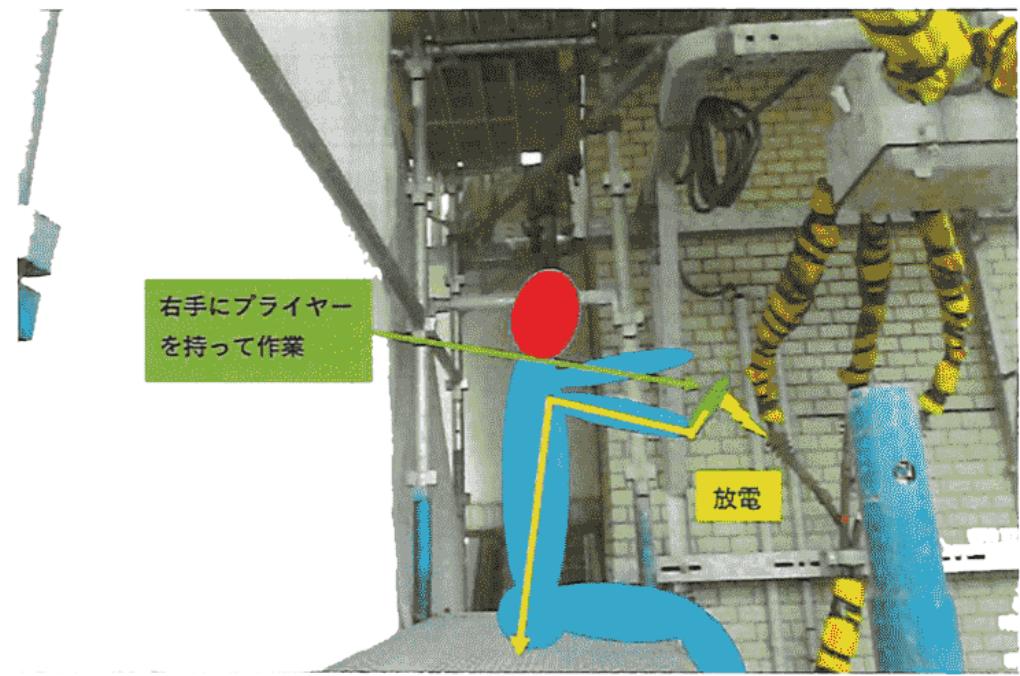


タイトル	仮置き桟木束が落下し、下方作業員の後頭部付近を直撃				大阪 地区
災害発生日時	2020年6月3日(水)8時30分頃[晴]				
職種	鉄筋工	年齢	60歳		
経験年数	27年0ヶ月	就労日数	97日		
負傷部位	頸部	起因物	木材、竹材		
型別	飛来、落下	負傷程度	第3頸髄脱臼骨折 頸髄損傷		
属性	一人親方	起因工事	鉄骨工事		
所属会社	一				
工事概要	工事種別 建物種別 階数	新築 ホテル B0 F14 P2	施工区分 工期	JV 19/6/1-21/11/30	RC
発生状況	<p>被災者が、低層棟1階スラブ上で壁配筋の段取り作業を行っていたところ、当日予定の無かった上階底型枠組立てを行うため、壁配筋作業エリアの上部に立ち入った型枠大工が、足元に仮置した桟木束に接触したため結束された桟木一束(3m×6本、約17.4kg)が約4.0m落下し、下部で段取り作業をしていた被災者の後頭部(首筋付近)に激突した。(被災者激突時の高さは約2.5mと推定)</p>				
災害形成要因(問題点)			再発防止対策		
1	使用資材の仮置きにおいて、不安定な状態で桟木を仮置きし、落下防止の固縛を怠った。		床端部近くに材料を仮置きする場合は、床端部から1m以上離して材料を仮置きする。スペース的に問題がある場合には、材料を固縛し、荷崩れしないように安定した状態とする。		
2	上下作業になっているにもかかわらず、作業調整を怠った。		作業計画において上下作業は行わない。上下作業になる恐れのある場合は、平面的にかわすことで、未然に災害リスクを排除する。また、作業環境で近傍に床レベル差がある場合には、上下作業になっていないことを確認したうえで作業に取り掛かる。		
3	当日作業員が予定以上に來たために、職長の判断で予定されていた作業エリアを広げたため、上下作業が発生した。		予定外作業を行う場合は、工事担当者と関連する職長とで必ず調整を行ったうえで作業を行う。		
4	当日作業員が予定以上に來たが、職長からの報告もなく、担当者も予定していた別の段取り調整に向かったため、現地の状況を把握できていなかった。		担当者は、予定された作業に変更が生じた場合は職長が必ず報告を入れるよう指示する。予定外作業となる報告を受けた際は、作業を開始する前に関連する職長と共に、手順・安全対策を再度確認し周知する。		

災害事例・再発防止情報

タイトル	高圧引込線付近で外壁シールの撤去中、感電した		
災害発生日	2020年5月14日(木) 16時30分 天候(晴)		
災害属性	被災程度	不休	災害種別 業務(通常)
	被災者属性	一人親方	
被災者	職種	防水工	年齢 37歳
	経験年数	14年	就労日数 27日
災害情報	型別	感電	起因別 送配電線等
	被災工程	その他工事(改修・改造)	被災作業 その他作業
	死傷病部位	手指一肩	
工事情報	工事種別	改修	受注形態
	工事区分	諸口工事	施工区分 単独
	建物種別	保険会社	
	構造	RC	階数 B0 F8 P0
1次協力会社	被災者系列	2次会社	竹和会 会員
	安衛協	加入	互助事業 加入
発生状況	いつどこで	午後・16時30分頃・3階南側の足場の上で	
	誰が誰と	被害者が	
	何をしていた時	プライヤーを使って外壁のシール撤去作業をしていた時	
	どうなったか	高圧ケーブルに約50センチの所まで接近し放電により感電した	
発生要因	1	危険作業事前打合せで、養生施設足場にはフェンス枠網養生を設置していましたが、メッシュシートのみで作業員が立ち入れる状態であった。	
	2	昼礼時の作業打ち合わせで高圧線引込部は立入禁止と指示していたが周知されていなかった。	
	3	高圧線引込部の足場は養生施設なので昇降階段を設けていないが、「高電圧注意」や「立入禁止」の注意喚起表示もなかった。また養生施設足場内は今回の施工範囲外であったが、被災者はピケ足場柱をよじ登り高圧線横でシール撤去作業を行った。	
再発防止策	1	危険作業事前打合せで決めた事は必ず実施する。危険個所は作業員が間違って立ち入らないよう、侵入防止(今回は仮囲いとした)の設置を現地・現物・現時で確認する。	
	2	昼礼時に実施した危険個所の「立入禁止」等の指示や連絡事項の周知が出来ているか、問い合わせ式声掛けで確認し、フォローする。	
	3	養生施設足場に「高電圧注意」と「立入禁止」表示を行う。また作業員が理解しやすい施工範囲図面(平面・立面)を作成し、具体的な作業指示を行うと共に、作業員が施工範囲を理解しているか問い合わせ式声掛けで、確認する。	

災害発生状況図



外壁シール撤去中、高圧ケーブルに近接し放電により感電した

2020年7月20日

協力会社事業主 各位

株式会社竹中工務店
 調達本部長 西村 博之
 生産本部長 長曾我部 誠

新型コロナウイルス感染症に対する「感染予防・感染拡大防止対策」の再徹底について

謹啓 貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、このところ東京都をはじめ、全国の新型コロナウイルス感染者数が再び大幅な増加傾向となり、更なる感染拡大が懸念されます。弊社作業所においても作業員の皆様の感染事例として、「発熱は無いものの、体調不良（咳及び倦怠感（けんたいかん）等）の自覚症状がありながら、無理をして就労し、後に感染者であったことが判明した。」と言う事例が複数発生しております。

作業所内において、新型コロナウイルス感染症を発生・拡大させないためには、本年5月8日付けでお願いした下記「感染予防・感染拡大防止対策」を徹底すると共に、特に下記1. 及び2. に示す「出勤・作業所入場前の作業員の健康状態の確認」及び「異常があった場合の報告」に重点を置いた対応を徹底していただき、新型コロナウイルスを作業所内へ持ち込まないことが、最も重要です。

つきましては、事業主の皆様には、弊社作業所で就労するすべての方々に下記に示す「感染予防・感染拡大防止対策」を確実に遵守・実行いただくよう、今一度、周知徹底いただきますと共に、事業主の皆様による現地現物での「巡回確認・指導」の徹底を継続的に行っていただきますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルスとの戦いは、長期にわたることが予想されておりますが、引き続き皆様と一緒にとなって対策を実行し、「感染者が発生しない作業所づくり」に努め、働く方々とそのご家族を含め、弊社の事業に関わるすべての人々の生命、健康及び安全を守り、安全かつ安心して工事を進めて行きたいと考えておりますので、何卒ご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

■ 感染予防・感染拡大防止対策（ は、今回特に対応の徹底をお願いする事項です。）

【作業所入場前の健康状態の確認及び感染防止対策】（下線部は、今回追記部分）

1. 作業員自身による「出勤前の健康状態の確認」及び「異常時の事業主・職長への報告」の徹底
（体調が悪い時は、出勤しない・させない）
2. 事業主・職長による作業所入場前の「作業員の健康状態の確認」及び「作業所への報告」の徹底
発熱、倦怠感（けんたいかん）、咳、呼吸困難及び味覚障害等新型コロナウイルス感染症を疑う症状がある場合は、事業主の指示により弊社作業所での就労を不可とする。（無理をしない・させない）
3. 通勤時の感染防止対策の徹底

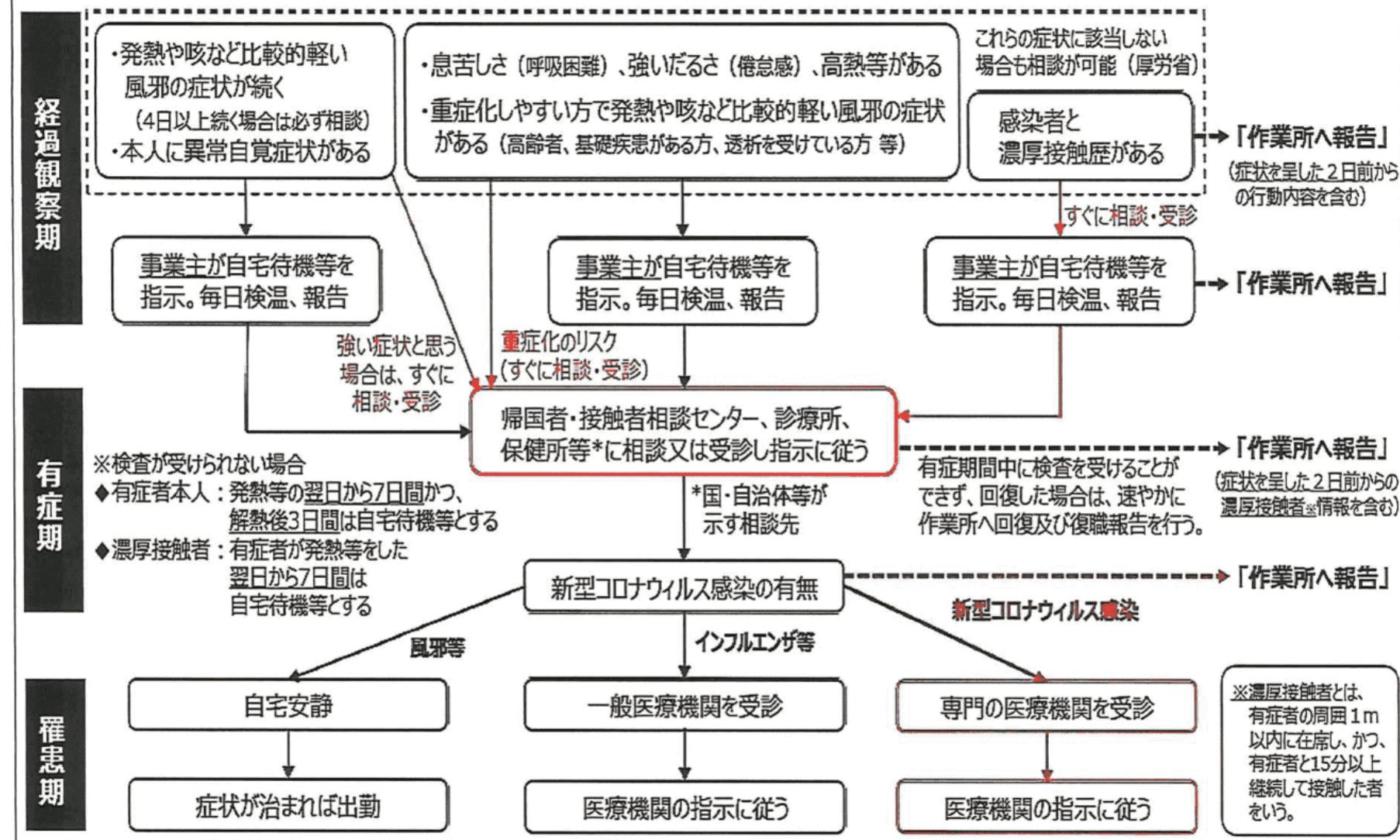
- ◇通勤時のマスク着用の徹底（特に電車・バス等公共交通機関内）。◇直行、直帰の推奨。
- ◇車通勤時における分散乗車（やむなく複数名が同乗する場合は、マスクを着用し会話を慎む）、
- ◇車内換気及び消毒の徹底。等

【作業所内における感染予防・感染拡大防止対策】

4. マスク着用の徹底（マスクの着用が安全作業遂行の妨げになる場合を除く。）
5. こまめな手洗い・アルコール消毒の徹底及びうがいの励行
6. 事業主・職長による作業所入場時（作業開始前）の検温及び異常発見時の報告の徹底
 37.0度以上の発熱（37.0度に限らず、平熱よりも高い熱）の場合（注）又は倦怠感、咳及び呼吸困難等、新型コロナウイルス感染症を疑う症状がある場合は、弊社作業所での就労を不可とする。
 （注）弊社作業所では、非接触型体温計及びサーマルカメラ等の体温計を整備しています。
7. 3密（「密閉」「密集」「密接」）排除の徹底及びソーシャルディスタンスの確保
 （例）◇朝礼、KYミーティング及び打合せ時は、お互いの距離をとる。
 ◇食事及び休憩時は換気を行い「密集」「密接」にならないようにし、大声での会話は慎む。
 特に、休憩所・喫煙所は大人数での使用を避け、昼食・休憩は時差取得及び配席の工夫をする。
 ◇室内作業時は、「密閉」にならないように換気を行う。等

感染の疑いが発生した場合の対応・報告フロー

※相談・受診時期は、下記にかかるわざ国等による指針等を参照し
症状を有する本人が判断する



熱中症予防対策【必須12項目】

(別紙1)

- ① 【体調】一人ひとりの**体調管理**(睡眠不足・過度の飲酒・朝食抜き・発熱は危険)
- ② 【体調】全員で作業前の**体調チェック**(当社従業員、職長が中心となり実施)
- ③ 【飲む】作業前・作業中の**水分・塩分のこまめな補給**
(濃度0.1-0.2%の食塩水又はナトリウム40-80mg/100mlのスポーツドリンクを20~30分毎にカップ1-2杯が摂取量の目安)
- ④ 【遮る】**熱中症予防保護具の着装**(防暑タレ・首筋冷却ベルト・冷却ベスト等)
- ⑤ **熱中症予防ポスター掲示とWBGT値(暑さ指数)の活用**
- ⑥ 【飲む】**熱中症パトロールの実施**(体調確認・スポーツドリンク配布等)
- ⑦ 【冷やす】工場扇風機、ミスト扇風機、スポットクーラー等の活用
- ⑧ 【飲む】塩飴類・ウォーターカーラー・製氷機の配置
- ⑨ 【飲む】**スポーツドリンク類の自動販売機を設置**
- ⑩ 【冷やす】作業場所近くに**クーリングダウンスペース**(冷却休憩施設)を設置
- ⑪ 【冷やす】事務所に緊急用**冷却パック・経口補水液等**を常備
- ⑫ 【体調】**平均台歩行**による体調チェック

竹中工務店

実施期間：2019.5~2019.9

熱中症を予防しよう！

(別紙2)

WBGT

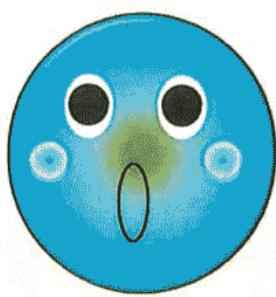
21°C以上25°C未満

25°C以上28°C未満

28°C以上31°C未満

31°C以上

熱中症警戒レベル



注 意 !

警 戒 !

厳重警戒 !

危 険 !



1回以上／
60分

1回以上／
60分

1回以上／
45分

1回以上／
30分



午前1回
午後1回

午前1回
午後1回

午前2回
午後2回

午前3回
午後3回

「めまい」「こむらがえり」は熱中症の前兆です。すぐに休憩しましょう！

竹中工務店

実施期間：2019.5~2019.9

WBGT値と気温・相対湿度との関係

(別紙3)

相対湿度(%)

	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
40	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
39	28	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42	43
38	28	28	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42
37	27	28	29	29	30	31	32	33	35	35	35	36	37	38	39	40	41
36	26	27	28	29	29	30	31	32	33	34	34	35	36	37	38	39	39
35	25	26	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	36	37	38	38
34	25	25	26	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	36	37	37
33	24	25	25	26	27	28	28	29	30	31	32	32	33	34	35	35	36
32	23	24	25	25	26	27	28	28	29	30	31	31	32	33	34	34	35
31	22	23	24	24	25	26	27	27	28	29	30	30	31	32	33	33	34
30	21	22	23	24	24	25	26	27	27	28	29	29	30	31	32	32	33
29	21	21	22	23	24	24	25	26	26	27	28	29	29	30	31	31	32
28	20	21	21	22	23	23	24	25	25	26	27	28	28	29	30	30	31
27	19	20	21	21	22	23	23	24	25	25	26	27	27	28	29	29	30
26	18	19	20	20	21	22	22	23	24	24	25	26	26	27	28	28	29
25	18	18	19	20	20	21	22	22	23	23	24	25	25	26	27	27	28
24	17	18	18	19	19	20	21	21	22	22	23	24	24	25	26	26	27
23	16	17	17	18	19	19	20	20	21	22	22	23	23	24	25	25	26
22	15	16	17	17	18	18	19	19	20	21	21	22	22	23	24	24	25
21	15	15	16	16	17	17	18	19	19	20	20	21	21	22	23	23	24

気温(°C)

WBGT値

危険
31以上

厳重警戒
28以上～31未満

警戒
25以上～28未満

注意
25未満